

| | | | |
|-------|--|-------|-------|
| クラス番号 | 901 | 担当教員名 | 木全 和巳 |
| テーマ | 生命・障がい・性・生活・貧困を哲学する――優生思想と社会防衛思想への対抗―― | | |

ゼミナール概要

キーワード：生命・障がい・優生思想・社会防衛思想・出生前診断・選択的中絶差別・貧困・人権・生命倫理

いろいろ悩みましたが、機能障がいを理由とした選択的中絶の問題を中心のテーマとしつつ、みなさんとていねいに考えていく一年にしようと思います。「新型出生前診断」がはじまり、日本においては、日本医学会の認定を受けて実施している国内 37 医療機関の実績を集計した結果、診断を受けて胎児に異常が見つかった妊婦の 97%が人工妊娠中絶を選んでいきます。推進する側、反対する側、医師、母親、本人などなどそれぞれの立場によっても、多様な考えが出てきています。

また、近くに障がいのある人たちの施設が建設されようとする、住民による反対運動が起きたりもします。敗戦後の歴史をみても、ハンセン病、水俣病の問題など、日本の国家は、当事者や家族の立場ではなく、病院や企業の側に立ち、当事者や支援者による社会的な運動が起こり、市民たちが問題にするまでは、解決にあたらうとしてきませんでした。残念ながら、原発の問題や沖縄の基地問題など、現在でもこのような対応となっています。

「ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問であり、社会正義、人権、集団の責任、および多様性尊重の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす」と、新しい国際ソーシャルワーカー連盟の定義に書かれています。

こうした問題について、じっくりと一年をかけて、さまざまな人にもインタビューもしながら、ゼミで対話と討論をしながら、それぞれの考えをレポートにまとめていく一年としたいと思います。映像や資料なども使いながら、よく読み込み、読み深め、読み広げていきましょう。他者の考えもよく聴きながら、対話と思索を繰り返しつつ、自分の納得のいく考えをことばにしてまとめていきましょう。

担当教員からのメッセージ



最終の課題レポートは、16000字（A4 八枚）の小論文は書いてもらいます。対話と討論などをしながら、じっくりと深く、納得のいくこたえを粘り強く出していく作業をいとわないかたが向いていると思います。ていねいに綴ること、他者の声に耳を傾けること、社会の問題と自分の問題とを重ね合わせつつ考えていきたい人が、向いている人かもしれません。社会という自分の周囲で起こっていることを「わがごと」として捉えていこうとするちからをつけたいですね。ゼミそのものが楽しいではなく、伝えあい、学びあいながら、わかるということ、新しい自分に出会えることが、楽しいというゼミにしたいです。